第10課　一致と破綻した関係

【暗唱聖句】

「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです」ローマ5：10

【今週のテーマ】

初代教会において、聖霊を受けた信徒同志でも時に関係がぎくしゃくすることがありました。そのときどのように対処していったのかを学ぶことで、今日の教会において同様の問題が生じたときどうすべきかを考えます。

【日曜日・修復された友情】

「バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教に一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した」使徒15：37～39

パウロとバルナバはマルコのことで対立します。パウロはかつて一緒に伝道旅行に行ったとき、怖くなって逃げ帰ってしまったことのあるマルコを非難しました。しかし、バルナバは経験のないマルコには無理もないことであったと寛容な心でマルコを弁護し、マルコには良い資質を備えているからともう一度チャンスを与えようと主張しました。結果的にこのことによってパウロとバルナバは別々の行動をとり、伝道はさらに広く発展していくことになるのですが、このような争いごとがパウロとバルナバという聖人視されているような2人の間で起こったことは、少なからずショックなことです。

「わたしと一緒に捕らわれの身となっているアリスタルコが、そしてバルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もしそちらに行ったら迎えるようにとの指示を、あなたがたは受けているはずです。ユストと呼ばれるイエスも、よろしくと言っています。割礼を受けた者では、この三人だけが神の国のために共に働く者であり、わたしにとって慰めとなった人々です」コロサイ4：10，11

コロサイ人への手紙を見ると、パウロはマルコのことを共労者として信頼し、わたしにとって慰めとなっているとさえ言っています。さらに「わたしの務めをよく助けてくれる」（第二テモ4：11）とも言っています。つまり、関係が修復されたということです。なぜマルコを信頼するようになったのかについては、具体的なことは書かれてありませんが、マルコがパウロにとって信頼にたる人物へと成長したのだろうと想像することはできるでしょう。そして、ここを読んでほっとさせられます。教会の中で考え方の違いによる対立があったとしても、その関係は修復されていかなければなりません。そうでなければ、どのような教会の働きも虚しくなってしまうことでしょう。

【月曜日・奴隷から息子へ】

ローマで監禁されていたパウロは、コロサイから逃げてきた奴隷オネシモと出会います。彼は実は教会の協力者であったフィレモンの家で仕えていた奴隷でした。パウロは彼を神のしもべとして育てていき、すっかり変えられていきます。そのままパウロのそばに置き、パウロの働きを手伝うこともできたのですが、パウロは主人であるフィレモンのもとに送り返すことに決めるのです。それはたとえ奴隷であったとしても、敵意を抱くような関係のままであれば、クリスチャンとして良い証にはならないからです。ただフィレモンのもとへ送り返すにあたってパウロはオネシモを奴隷ではなく、兄弟として扱ってほしいと頼みます。

「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはずです。だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと思って迎え入れてください」フィレモン　16，17

フィレモンへの手紙は、聖書の中でも非常に珍しい個人に宛てた手紙であり、しかもその内容は関係の修復でした。このような個人的な手紙が聖書の中に収録されているということは、いかにそれが大切なことなのかを物語っています。

【火曜日・一致のための霊的賜物】

「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです…ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」コリ3：9～11

パウロは一致の大切さについて、私たちは神様のために力を合わせて一緒に働く者であり、神様の建物なのだと例えられています。ばらばらではなく力を合わせるのが教会です。また家を建てるときに重要なのは土台ですが、その土台はイエス・キリストなのだと強調しています。つまりイエス・キリストの御心を力を合わせて行っていく、それが教会なのです。もしこの土台がそれぞれ異なっていればうまくいきません。常に再確認すべき点です。

またパウロはキリストの体としての働きを、それぞれに与えられた賜物に応じて行っていくように教えられています。その賜物に大きい、小さいは当然ありますが、比較すべきものではなく、尊重しあうべきものです。なぜなら、「体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要」（使徒12：22）だからです。一致した働きを成し遂げていくために霊的な賜物が与えられているのに、逆にその賜物を比較しあうようなことがあれば、かえって賜物が一致の妨げともなりえます。これは本当に愚かなことですし、悪魔が背後に見え隠れしています。いつも謙遜な思いを持ち、神様の御前に自分も他人も認めていくことが大切です。

【水曜日・赦し】

一致において、ときに相手を許さなければならないことがあるかもしれません。しかし相手のほうが悪いとか、相手は反省していないなどの理由で許すことがなかなかできないということもあるでしょう。聖霊によって心が癒され、許すことができるようにと祈ることが大切です。またイエス様のことを思い出しましょう。イエス様は「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいた」（ローマ5：10）とあるように、わたしたちが敵つまり、赦すに値しないようなときに、先にご自分の死によって私たちを赦してくださったのです。

　またわたしたちが誰かを許すということは、霊的健全性にとって重要です。人を許すことができないと、わたしたちの心の中は負の思いで満ち、心身ともに傷ついてしまうことでしょう。またそれが教会内でのことであるならば、キリストの体の一致をも傷つけてしまうことでしょう。イエス様によってすでに赦されていることを思い、わたしたちも人を許すように祈る必要があります。もし人を許すことができないと、わたしたちも神様からの赦しを失ってしまうことでしょう。

【木曜日・回復と一致】

実際に人間関係のトラブルが教会内で起こってしまった場合、聖書はどのように解決したら良いのかを教えています。

「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい」マタイ18：15～17

まずは公にしないで当事者の2人だけで話し合うことです。言うことを聞き入れてくれたなら、問題が解決し、良い関係が生まれます。しかし2人だけでは話がまとまらない場合は、一人か二人、一緒に連れて行き、彼らを証人として話し合いをします。第三者がいることで客観的な意見が生まれます。それでもうまくいかないときは教会（理事会）に申し出ます。それでもうまくいかない場合は異邦人同様にみなしなさいとは、教会からの除名を意味しています。

「はっきり言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる」マタイ18：18

過ちを認めることができず、最後まで謙遜な心を現わすことができないとき、教会は除名処分を下さざるを得なくなりますが、それは「あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる」とあるように、霊的には神様との関係も切れてしまうことを意味しています。

「恨みが敵意に変わるのを許してはならない。傷が膿み、毒に満ちた言葉となって噴き出るのを許してはならない。あなたの兄弟のところに行って、謙虚に誠実に、その問題について話し合いなさい」福音宣伝者499